

《令和5年度の研究 イメージ》

「個別最適な学びと、協働的な学び」の一体的な充実の実現

「育成すべき資質・能力を明確にした学習デザイン」と「ICTの効果的な活用」の深化

令和5年度の重点

児童生徒の振り返りと教師の学習評価の充実

児童生徒の振り返りの充実

学習習慣の定着
学習意欲の向上
学習内容の確実な定着

学習評価の充実

教師自身の指導の改善
児童生徒の学習改善につながる

令和4年度の課題

個別最適な学びの課題

最適な学習方法の発見につながる手立て

協働的な学びの課題

全ての子が学びの成果を実感する手立て

令和4年度研究を進めてきた内容

- 1, 学び方
→教師の押し付けによる一つの学習方法に固執しない, 思考ツールなどの様々な学習経験を積み重ねることや, 目的ではなく手段として効果的に一人一台端末を活用すること
- 2, 教師の役割
→伴走者として児童生徒のよりよい学びを支えるために, 一人一人を丁寧に見取ることや教師自身が多くを学び, 児童の困り感を支えるための引き出しを豊富にもつこと。
- 3, 児童生徒の主体的に学習に取り組む態度
→友達の考えや方法に流されない, 主体的な学習方法の選択をすることができる児童生徒の育成やそれを支える学級経営の充実。
- 4, 評価(ルーブリック)
→保護者や児童生徒の信頼を得るのと同時に, 児童生徒がより主体的, 協働的・対話的な学びに向かうことのできるルーブリックの作成。
- 5, 見通し
→明確なゴールの設定とゴールへの方向性を確認する時間や場面の設定。
- 6, 振り返り
→自己の学習状況をメタ認知することのできる, 今日の学んだことが何かを自覚し, アウトプットすることのできる振り返り
- 7, 「ICTの効果的な活用」
→教育の質の向上のための効果的なICTの活用
→ICTの活用に向けて教師の資質・能力の向上
 - (1) 1年目の重点であった「育成すべき資質・能力を明確にした学習デザイン」やそれぞれのこれまでの実践と効果的にICTを組み合わせる
 - (2) ICTを目的化するのではなく, 知識・技能を習得させるため, 思考力・判断力・表現力等を育成するためにどう活用するか, 道具, 手段としてのICTの活用
 - (3) 教師のアリバイ作りのためのICTの活用ではなく, 児童生徒の学びに生かす, 児童生徒が中心となる積極的な活用
 - (4) 児童生徒がICTを“すぐにでも”“どの教科でも”“誰でも”活用できるようにし, 文房具として自由な発想で活用するための授業改善, 授業デザイン

